

みわのうえんかぶしがいいしや だいひょうとりしまりやく みわ としゆき
三輪農園株式会社 代表取締役 三輪 敏之(山口県山口市)

品種	作付面積 (応募面積)	単収 (玄米換算)	地域の単収との差(地域の平均単収) ※作況補正後の地域の平均単収
みなちから、北陸193号	約8.1ha	722kg/10a	195kg/10a(527kg/10a)

【経営概況】

- ・令和4年11月家族経営から法人設立
- ・家族3名で主要作業を実施
- ・農繁期はアルバイト数名とシルバー人材センターにより対応

【作付品目】

- 主食用米:
中生新千本、ひとめぼれ 6.3ha
- 飼料用米:みなちから、北陸193号 8.1ha
- 小麦、二条大麦、WCS用稲、野菜 14.1ha

【取組のきっかけ】

- ・実需者と飼料用米生産者の耕畜連携(資源循環型サイクル)を基本とした取組に共感し、平成22年産から三輪利夫(現会長)が飼料用米生産に取り組む。

【取組概要】

- 令和4年産までは「夢あおば」を選定していたが、近年の夏の高温を考慮し、令和5年産から「夢あおば」より多収が期待できる「みなちから」に変更した。また、作期分散のため大麦収穫後に多収で倒伏しにくい「北陸193号」を作付けした。
- プール育苗で育苗作業を省力化。移植栽培で50株/坪・15苗箱/10a(地域の慣行60株/坪・18~20苗箱/10a)の疎植栽培とし、箱数を削減。田植え同時側条施肥で、一発肥料(エフエスコート2500)を使い省力化・コスト低減に努めている。
- また、土地改良資材(ミネラルGF)を隔年散布し、稲わらのすき込みによる地力増進、実需者から鶏糞堆肥の無償供給を受けることで資材費を低減、乾燥・調製を自己の施設で行い、実需者へもみ・フレコン出荷することで、もみ殻の処理費用・包装容器代の低減等、生産コスト低減の取組を実施。
- 病虫害防除については、田植え同時箱施用機及び田植機に装着したジャンボタニシ用農薬散布機の使用により省力化、農薬を均一に散布するブームスプレーヤー防除で農薬費を削減。雑草防除については、初中期除草剤(流星1キロ粒剤)を田植え同時散布機により散布することにより省力化している。
- 栽培期間中、実需者主催の全生産者現地巡回視察(年2回)を活用し、多収穫、コスト低減等の生産技術の向上を図っている。

